

3. 2017 年度活動概要

1993 年 3 月にこの研究会が発足して今年で 25 年目を迎える。「継続は力なり」または「継続は真なり」をモットーに、8 月を除いて毎月 1 回の研究会を開催した。今年の特徴は、1) 編集委員長の石川慎一郎先生（神戸大学）による査読付きの「紀要 6 号」を 12 月に刊行した、2) 発表者の都合で第 180 回と第 181 回の研究会を 12 月 2 日（土）に同時に開催し、第 180 回は JLTA（日本言語テスト学会）と協賛した、3) 初めて、一般企業からの研究発表があった、4) 年間参加者が 200 名を超えたこと等です。

今年も関東・関西及び中国・四国支部会員からの研究発表がありました。参加者が 20 名を超した第 175 回の研究会では「韓国発自立型学習タブレット教材 SMARTree の大量インプット&アウトプットによる 4 技能学習法」吉澤真理（（株）Pep）、林千晶（福岡女学院大学）による発表に多くの先生が関心を持たれた。第 177 回は特別シポジウム：「学習者コーパスを用いた L2 産出の問題点の諸相：英語教育の視点から」をテーマに石川慎一郎先生（神戸大学大学院）3 名による研究発表に 20 名を超す参加者の興味を集めた。第 179 回は研究会で初めての民間企業から「ジャイロスコープ、楽しい英語体験事業への挑戦」の題目で桂 次郎・久保正次（ジャイロスコープ（株））による「ハウステンボス・英語村」の状況と実態についての発表があり、参加者からの多くの質疑がなされた。第 181 回はテーマ：「これからの英語教育—質保証にむけて」では田地野彰先生（京都大学院）他 6 名の先生の研究発表に関東・関西及び九州各県から 40 名の参加者が集い活発な質疑応答が交わされ、終了後の懇親会も 20 名超す参加者があった。

第 56 回 JACET 国際大会（於：青山学院大学）では、この研究会企画としてシンポジウム「日本、韓国、台湾における英語教育政策と大学入試問題の現状と展望」と題し、コーディネーター兼パネリストで柏木哲也（北九州市立大）、パネリストとして原 隆幸（鹿児島大学）と木下正義（元福岡国際大学）が発表した。